



浦島伝説

令和5年 6月 9日

第 9 号



失敗と書いて

「せいちょう」と読む

もちろんテストで解答すると間違いですよ。しかし、人生においては、まさにこの連続ではないでしょうか。これは野村克也さんの言葉です。野村さんは、プロ野球のヤクルト・阪神・楽天などで監督をつとめ、それぞれの球団で結果を残した名将とされています。

人間は、失敗してはじめて自分の間違いやいたらなさに気づく。「どうして失敗したのか」「何がいけなかったのか」と反省し、「どうすればうまくいくのか」「何をすればいいのか」を真剣に考える。この過程で人間は成長するのである。



みなさんも聞いたことがあるかもしれません。多くの人が知っているこの言葉を実践して我々に証明してくれている人がいます。大谷翔平選手です。

三振した数	928
打たれたヒットの数	647
ホームランを打たれた数	59
失点数（点数をとられた数）	281
チャンスで凡退した数	506
ケガで投げられなかった日数	692
試合に負けて泣いた数	秘密
二刀流が無理だと言われた回数	∞
二刀流が無理だと思った回数	0

左に紹介したのは、WBC 開催中に流れていた CM での数字です。プロになってからの大谷選手の「失敗の数」が次々と紹介され、すごい数の数字が並んでいます。

そんな中で「二刀流が無理だと言われた回数」∞（無限大）「二刀流が無理だと思った回数」0は、大谷選手の強い気持ちが表れていると感じるとともに今後の彼の成長が楽しみで仕方のない人も多いと思います。

大谷選手は、多くの人たちの前で数多くの失敗を重ねていますがそこから「どうして失敗したのか」「何がいけなかったのか」と反省し、「どうすればうまくいくのか」「何をすればいいのか」を真剣に考え、自分なりに学び、日々探求することで今でも成長を続けています。

紹介した大谷選手の失敗した数字の中でみなさんが注目する数字はどれですか？

私が一番注目した数字は692です。「ケガで投げられなかった日数」です。プロ野球選手である大谷選手にとって投げられないというのは、自分の仕事ができない。したくてもすることができない日数と考えると692というのはとんでもない数です。約2年間大好きな野球で投げることができないのです。しかし、彼は、この期間に肉体改造に取り組みケガをしない体作りをし、復帰したときの自分を常に想像しながらリハビリに取り組みでいたといっています。ケガの期間にも自分のできることに取り組み成長を続けていたのです。試合の前に外野のフェンスにいろんな種類のボールを投げるルーティンもその時に考えていたようです。今では「野球と書いて大谷翔平と読む」とまで言われています。

「超一流の中学校と書いて詫間中学校と読む」大谷選手には負けられません。なんせ詫間中学校には生徒274教職員48のメンバーがいるのですから。